

# 産官学の連携で 元気みなぎる徳島づくりを



徳島市長  
**原 秀樹**

はら ひでき

今年、4月に徳島市長に就任いたしました原 秀樹です。

ご承知のとおり国 地方を取り巻く環境は、長引く不況や少子高齢化社会の急速な進展により、依然として厳しく、特に地方においては三位一体改革が財政運営に非常に大きな影響を与えています。

一方、国立大学は今年4月から独立行政法人化され、今まで以上に特色ある大学経営が望まれていきます。競争力をつけ、自主・自立による地域に根を張った存在への転換期を迎えており、このことは大学にとって大きな飛躍の機会を得たのではないかと思っております。

徳島大学では、昨年度、大学教育の改善に対する取り組みである「特色ある大学教育支援プログラム」への採択、また、研究拠点の形成での重点的な支援である「21世紀COE

プログラム」での2拠点が文部科学省に採択されております。このような輝かしい成果は日々の研鑽の賜物であり、将来に渡って大きな財産となることでしょうか。

さて、私は大学の持つポテンシャルをより一層地域に貢献して欲しいと思っており、その考えを示したものが、選挙公約の二つの「産・官・学が連携し、技術開発力の強化と人材の育成を図り、徳島発の起業を支援します。」であります。

徳島大学とは既に徳島地域連携協議会を核として、大学・起業・行政の連携を深めているところですが、徳島市との関係においても、シビックセンターでは大学開放実践センターと徳島市文化振興公社、徳島市とが三者協定を締結し、「シビックU-T実践学習センター」をスタートさせ、大学開放実践センターのサ

テライトラボもオープンしました。

また、今世紀前半に発生すると予想されております東南海・南海地震に向けて地理情報システムを用いた地域情報・ハザード情報支援事業の実施など様々な分野での連携を深めているところでございます。さらに、今年度もインターンシップにより、総合科学部から二人の学生を受け入れ行政事務の実習を実施しました。

徳島の元気回復のためには、徳島大学の持つ人材・技術開発力・研究成果などの豊富な資源とのより二層の連携が不可欠であると考えております。

徳島大学におかれましては、厳しい大学間競争に勝ち抜き、今後益々の飛躍をご期待申しあげます。



## プロフィール

### 主な経歴

- 昭和30年6月9日生まれ
- 昭和56年3月 中央大学法学部卒業
- 平成 元年9月 徳島県議会議員（連続4期）
  - // 12年3月 徳島県議会副議長に就任
  - // 13年6月 学校法人原学園 白うめ幼稚園 理事長（～16.3）
  - // 14年4月 全国私立幼稚園PTA連合会四国地区会長（～16.3）
  - // 8年10月 徳島市軟球野球協会会長
  - // 16年4月 徳島市長に就任

- 趣味・特技：読書・写真・ゴルフ・サッカー・野球  
少年野球大会の開会式でストラックアウトに挑戦
- 好きな本：「幾山河」瀬島龍三著
- 座右の銘：「誠実一路」
- 血液型：Rh+O型

